

文化遺産総合活用推進事業 実施報告

1 都道府県・市区町村名	岩手県	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	「世界遺産平泉」保存活用推進事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 32 年度		
5 過去の補助事業実績			
平成 23 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			千円
平成 24 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			千円
平成 25 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成 26 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成 27 年度文化遺産を活かした地域活性化事業		7,088	千円
平成 28 年度文化遺産を活かした地域活性化事業		39,917	千円
平成 29 年度文化遺産総合活用推進事業		11,768	千円
平成 30 年度文化遺産総合活用推進事業		2,339	千円
6 計画の実施状況（概要）			
※平成30年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。			
1. 「平泉の文化遺産」パンフレット作製事業			
平成27年度は、平泉の文化遺産について普及啓発を目的としたパンフレットを作成し、現在県内外の観光協会、一般の方々等に配付を行っている。			
（規格）A5判			
（作製部数）日本語版：36,000部 英語版：4,000部			
平成28年度は、アンケート調査結果をもとに公共交通機関についての情報の充実を図り、よりよい情報提供を行った。また、英仏併記版のパンフレットを作成し、海外に向けて情報発信を強化した。			
（規格）A5判			
（作製部数）日本語版：34,000部 英仏併記版：5,000部			
平成29年度は、出土文化財についての情報の発信、研究成果を踏まえた平泉の新たな価値の発信など、日本語、英仏併記版とも新たな内容の掲載を行った。			
（規格）A5判			
（作成部数）日本語版：35,000部 英仏併記版：5,000部			
2. 世界遺産平泉についての高校生英語スピーチコンテストの開催			
平成27年度事業は、前半は7名の高校生により「世界遺産平泉」をテーマとする英語スピーチコンテストが行われ、後半は近藤誠一前文化庁長官と出場した高校生によるディスカッションが行われた。			
平成28年度事業は、《世界遺産登録5周年記念事業》としておこなうことから、県内高校生9名のほか、特別枠として地元中学生2名も出場する高校生英語スピーチコンテストのほか、地元出身の壺家による『平和希求』の講座を開催し普及啓発を行った。			
3. 世界遺産講座「ときめき世界遺産塾」事業			
平成27年度は、中尊寺・毛越寺といった平泉の世界文化遺産構成史跡に加え、達谷窟・骨寺村荘園遺跡群等の拡張登録を目指す史跡、栃木県の世界文化遺産である日光東照宮の散策学習を行った。			
平成28年度は、平泉の世界文化遺産構成史跡の散策学習、福島県内を中心とした県外研修等を行った。			
平成29年度は、平泉の世界文化遺産構成資産の散策学習、秋田県内での県外研修等を行った。			
平成30年度は、平泉の世界文化遺産構成資産の散策学習、青森県内を中心とした県外研修等を行った。			

4. 観光ガイド養成講座

平成28年度は、新人ガイド養成講座で、講義・実技等を行った。会場は平泉文化遺産センターで、中尊寺・毛越寺僧侶・平泉文化遺産センター職員らを講師に15日間の講義・実技を行った。講習後に理解習得・及び適正を判断するレベルチェック診断を行った結果、8名の合格者をガイドの会のメンバーとして迎え入れた。

(受講者人数) 25名

(新人ガイド数) 8名

5. 「平泉の文化遺産」復元映像化事業 (※)

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録5周年記念事業の一環として、最新の仮想現実 (VR) の技術を用いて、無量光院の本堂や浄土庭園、毛越寺前の通り及び柳之御所遺跡を再現し、往時を体感できるシステムを構築。

映像再現とともに無量光院跡と毛越寺前の通り、柳之御所遺跡及び金鶏山等の周辺史跡との関係を併せた情報提供を盛り込み、県内外問わず多くの人々の効率的な学習を推進することを目的とし、反響等を考慮した上で将来的な構想として、町内の各遺跡にVRを整備し、町内全体を楽しく観光体験できるよう整備を「来訪者管理戦略」の一環として推進する。この効果により、来訪者にとって中尊寺及び毛越寺といった特定の史跡のみならず、世界遺産を構成するほかの史跡の情報提供を行うことで、それらの価値の理解促進につなげていくこととする。

(※)平成28年度交付要望当初は、無量光院跡のみの復元映像を再現する事業だったため、「無量光院跡復元映像化事業」であった。しかし、平成28年4月1日付け事務連絡の採択条件より、他の史跡等についての情報も盛り込む事業内容に変更したため、「平泉の文化遺産」復元映像化事業と事業名を変更したものの。

6. 「平泉の文化遺産」活性化情報発信事業

世界遺産登録5周年を契機として、更に増加が期待される国内外の来訪者に「平泉の文化遺産」の魅力を発信するとともに、構成資産等の情報が容易に得られるよう多言語に対応したホームページを作成。

特に、海外からの来訪者を当地域に呼び込むための手段として、英語、中国語 (簡体・繁体)・タイ語の4か国語で作成し情報発信する。こちらは「来訪者管理戦略」に基づき、世界遺産の構成資産や拡張資産など、その他周辺の史跡を、外国人が理解しやすいように見所や理解のポイントなどの詳細を、画像を中心に紹介し、平泉の歴史と文化・伝統をより深く理解してもらえるような内容とした。また、「平泉の文化遺産」をより積極的に活用していくために、史跡に関する資料や最新のデータなどを広く公開し、外国人来訪者に平泉の価値について理解を促し、現地を訪れてもらえるような内容とした。

7. 平泉文化フォーラムの開催

平成27年度は、2日間にわたり基調講演や世界遺産平泉の構成資産及び拡張登録の候補となる遺跡の報告、研究発表が行われた。来場者数は約480名。

平成28年度は、世界遺産平泉に関する最新の発掘調査成果及び平泉文化共同研究等の研究成果について、県民等を対象に報告会 (フォーラム) を開催した。また、世界遺産平泉から離れた地域住民の平泉文化への関心を高めるための方策として、資産見学とフォーラム参加を組合せたツアーを行った。

平成29年度も、世界遺産平泉に関する最新の発掘調査成果及び平泉文化共同研究等の研究成果について、県民等を対象に報告会 (フォーラム) を開催し、また世界遺産平泉から離れた地域住民の平泉文化への関心を高めるための方策として、資産見学とフォーラム参加を組合せたツアーを行った。

平成30年度についても、世界遺産平泉に関する最新の発掘調査成果及び平泉文化共同研究等の研究成果について、県民等を対象に報告会 (フォーラム) を開催し、また世界遺産平泉から離れた地域住民の平泉文化への関心を高めるための方策として、資産見学とフォーラム参加を組合せたツアーを行った。

8. 児童生徒向け世界遺産平泉の紹介冊子作製事業

平成27年度は、授業や課外活動等の学校教育現場において、教師が世界遺産平泉の指導の参考としたり、児童生徒が自発的に学習するための小冊子 (ガイドブック) を18,000部作製した。また、それらを岩手県内の学校に配付した。

平成28年度は、内容の充実等ガイドブックを大幅に改訂し、21,500部作成のうえ、岩手県内の学校に配付した。

平成29年度は文化財を紹介する内容等を新たに加える等改訂し、19,500部作成するとともに、児童生徒が情報を書き込みながら現地学習に活用するための、「平泉野外学習帳」をガイドブックを補完するものとして65,000部作成のうえ、両冊子を岩手県内の学校に配付した。

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況

※平成30年度までの進捗状況について、実施計画で設定した指標に基づき、状況値と目標に対する達成率を記載してください。
(指標・目標値を複数設定している場合は、全て記載)。

別紙①②のとおり

8 事業実施による効果等

※平成30年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況(人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果)を具体的に記載してください。

1. 「平泉の文化遺産」パンフレット作製事業

平成28年度アンケート調査により、平泉に「また来訪したい」と答えている来訪客の割合は92.9%となった。

2. 世界遺産平泉についての高校生英語スピーチコンテスト

出場した高校生及び中学生が多角的な視点から、自身の考えを英語で表現することにより、平泉の文化遺産に対する来場者・関係者等の人々の興味関心が高まるとともに、「世界遺産平泉」の価値や魅力を世界に発信する若人の人材育成が図られた。

3. 世界遺産講座「ときめき世界遺産塾」事業

次世代に「平泉の文化遺産」を伝えていく人材を増やすため、より多くの塾生の確保を行いつつも、塾生一人ひとりに対して十分なフォロー可能かつ講座の質を維持できる人数である各回40人、延べ参加人数240人の参加を目標としている。

補助対象事業となった平成27年度には各回40人以上となる延べ人数277人の参加があり、平成28年度は、153名の参加があった。平成29年度は60名(全6回講座のうち1回が中止)、平成30年度は、122名の参加があった。

4. 観光ガイド養成講座

平成28年度4月から9月までのガイド件数は1390件と、前年度比106.7%と増加したことを受け、ガイド依頼に対応できずに断るケースもあった。しかし、当該事業を実施したことより、新人ガイド8名が新たに加わり、現在はガイド依頼に十分対応できる体制となっている。

5. 「平泉の文化遺産」復元映像化事業

VRコンテンツを平成28年度に完成させ、他団体と協議しながら活用を行い、平成30年度は小中学校の課外授業や修学旅行、各種イベントや視察など、延べ622件の利用があった。

6. 「平泉の文化遺産」活性化情報発信事業

平成28年度に多言語化対応ホームページを完成させ公開して関連情報を発信した。

7. 平泉文化フォーラム

岩手県内外の方々に、平泉文化に関する最新の研究成果を報告し、世界遺産平泉及び拡張登録の候補となる資産に対する興味関心が得られた。

平成30年度のアンケートでは、平泉町、奥州市、一関市以外からの参加者が51%、「平泉への関心が高まった」という回答が79%であった。

8. 児童・生徒向け世界遺産平泉の紹介冊子作製事業

当課が行っている調査によると、小冊子を活用している学校は、配付した学校総数の9割以上と高い水準で活用されていることが分かる。この状況は、児童の地域に対する愛着や魅力を体感させ、将来世代に平泉の価値を伝えていくとともに地域を支えその発展を担う人材を育成に寄与すると考えられる。

9 得られた効果の検証・分析

1. 「平泉の文化遺産」パンフレット作製事業

アンケート結果で高い割合で「リピーター化」を示す意識が醸成されているのは、当該事業のパンフレットにより、広く平泉の文化遺産に関する情報提供及び普及啓発を行っていることも一要因であると考えられる。また、ふたたび平泉に来訪したい意欲があるということは、来訪者が平泉の文化遺産に対して満足度している証拠と考えられるが、こちらにも、本事業で作製したパンフレットが一助となっていると考えられる。

今後も、このアンケートに寄せられた意見等を取り入れながら、さらによりよいパンフレットになるよう改訂していくとともに、来訪者の満足度を維持するように努めていくものとする。

2. 世界遺産平泉について的高校生英語スピーチコンテスト（平成28年度で補助終了）

アンケート結果により、参加生徒は平泉の「極楽浄土の世界」、つまり平泉の基本理念の「平和」の理解が深まり、かつ「平泉の文化遺産」についての興味が喚起されたことが伺える。また、参加した生徒全員が「平泉の文化遺産」及び外国からの訪問客に対し英語で案内することに意欲を示しており、なかには「外国でのボランティアを通して、平泉の素晴らしさを伝えたいと思う」と、回答する生徒も見られた。このことから、本事業を実施したことで、平泉について世界に向けて情報発信する人材の育成に貢献できたと考えられる。

平成29年度以降は自主事業として継続して開催しており、今後も継続を予定。

3. 世界遺産講座「ときめき世界遺産塾」事業

平成30年度においては、各回のアンケートを迅速に次回講座へ反映していたことにより、塾生の講座への参加率が過去最高の75%となった。またアンケート結果からも「平泉の文化遺産」についての理解を深めることが出来たと見える。今後は引き続き参加者の増加となるよう魅力ある講座内容へ改善を図るとともに、「平泉の文化遺産」を受け継ぐ人材育成を継続して行えるよう、ジュニアリーダーの募集方法について改善を図る。

4. 観光ガイド養成講座

当初目標としていた10人の新人ガイドの養成にはわずかに及ばなかったが、海外への来訪者に対応できる英語力のある人材など、幅広い人材をガイドに登用でき、活躍している。

今後もニーズの把握に努め、ガイド育成を行っていく。

5. 「平泉の文化遺産」復元映像化事業

復元映像を利用することにより、遺跡本来の価値や魅力、往時の人々の様子を来訪者へわかりやすく伝えることができている。また、小学校の課外授業への活用では2年連続して利用している学校もあり、継続的な来訪と児童教育へ大きく貢献している。今後は一般の利用者も増加するようよりよい活用法を検討していく。

6. 「平泉の文化遺産」活性化情報発信事業

平成28年度にホームページを完成させ、公開したことにより、「平泉の文化遺産」の魅力発信に繋げ、世界遺産登録以後減少傾向にあった海外来訪者の人数を維持するように努めている。

7. 平泉文化フォーラム

アンケート調査で、平泉の周辺地域以外の住民の参加率及び、全参加者のうち平泉についての「興味関心が高まった」という回答をした人の割合を測る。こちらのデータを、今後の事業の参考としていく。

8. 児童・生徒向け世界遺産平泉の紹介冊子作製事業

活用に関するアンケート調査結果を受けて、今後も各学校が継続して活用してくれるように、分かりやすい表現を心がけたり平泉の文化遺産に対する情報の充実を図っていく。また、平成29年末に作製・配布した「平泉野外学習帳」で自発的な学習の機会を増やすことで、平泉について普及啓発及び人材育成を推進していく。「野外学習帳」の活用の過程で出た疑問や問題点について調査し、結果次第で今後の改善等に活かしていく。

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙

具体的な指標 1 :	「平泉の文化遺産」にまた来訪したい旨の回答					関連事業 :	事業①	
目標値 1 :	平成 28 年度		90 %		⇒	平成 32 年度		90 %
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度			
%	100 %	86 %	%	%	%			
	111%	95%						
具体的な指標 2 :	地域の文化遺産を教材とした小冊子の活用度					関連事業 :	事業②	
目標値 2 :	平成 28 年度		90 %		⇒	平成 32 年度		90 %
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度			
%	97 %	98 %	%	%	%			
	108%	108%						
具体的な指標 3 :	「平泉の文化遺産を大切にしていこうと思った」などの主旨の回答の割合					関連事業 :	事業③	
目標値 3 :	平成 28 年度		80 %		⇒	平成 32 年度		80 %
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度			
%	100 %	100 %	%	%	%			
	125%	125%						
具体的な指標 4 :	平泉の文化遺産を紹介するガイド体制の維持					関連事業 :	事業④	
目標値 4 :	平成 28 年度		34 名		⇒	平成 32 年度		34 名
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度			
名	31 名	31 名	名	名	名			
	91%	91%						
具体的な指標 5 :	地域に誇りを感じる住民の割合					関連事業 :	事業⑤	
目標値 5 :	平成 28 年度		70 %		⇒	平成 32 年度		77 %
進捗状況 5 :	各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度			
%	71 %	79 %	%	%	%			
	14%	129%						

事業④：	観光ガイド養成事業		実施団体：	一般社団法人古都ひらいずみガイドの会		
事業区分：	人材育成		事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 32 年度		
事業概要：	既存ガイド会員の資質の向上を図りつつも、新人ガイド活動者数の増加も図り、インバウンドも含めた観光客の需要に対応できる体制の維持を図っていくものとする。					
具体的な指標：	ガイド養成講座修了者で、講座修了後に活動する者の数					
目標値：	平成 28 年度		34 人		⇒ 平成 32 年度	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成	年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
	人	31 人	31 人	人	人	人
		91%	91%			
事業⑤：	平泉文化フォーラム		実施団体：	「世界遺産平泉」保存活用推進実行委員会 いわて高等教育コンソーシアム運営委員		
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 28 年度 ~ 平成 31 年度		
事業概要：	世界遺産平泉に関する最新の発掘調査や研究の成果について、県民を対象に報告会（フォーラム）を開催する。平泉文化共同研究の研究成果についても併せて報告する。					
具体的な指標：	アンケート調査にて「平泉文化に興味を持った」回答の割合					
目標値：	平成 28 年度		70 %		⇒ 平成 32 年度	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成	年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
	%	71 %	79 %	%	%	%
		14%	129%			